学校番号	３０５

令和３年度　地理・歴史科

教科	地歴科	科目	日本史Ａ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	日本史Ａ　現代からの歴史　（東京書籍）						
副教材等	新詳日本史（浜島書店）　　新日本史研究ノート　標準編（九歴協編集委員会）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・日本の近現代史を、国際社会とのつながりに注視しながら学習を深める。
・日本の近現代史の展開が、東アジア社会へ与えた影響を多面的に考察し、歴史への関心を高める。
・現代を生きる我々にとって、歴史を学ぶことは未来を展望するために重要なことがらである。

2　学習の到達目標

・日本の近現代史の展開を、地理的な条件や国際社会の動向と関連付けて考察する。
・国際社会を主体的に生きる日本国民として、歴史を多角的な視点からとらえ、歴史的な思考力を養う。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	○日本の近現代史の展開が現代社会にどのようにつながっているのかを意欲的に調べ、思考することで歴史に対して関心を持って学習に取り組めているか。 ○現代社会の諸問題について、平和で民主的な世界・社会を構成する一員としての自覚を持ち、問題解決に向けて行動するする態度を身に付けているか。	○近現代の日本の歴史の展開から現代社会における課題を見出し、広い視野に立って世界史や国際環境と関連づけて考察しているか。 ○近現代の日本の歴史の展開から産み出された課題について、それらが歴史的に形成され、様々な理解・立場があることを思考し、公正に判断しているか。また、考察や判断の過程や結果を，効果的かつ適切に表現しているか。	○日本の近現代史を考察するために必要な諸資料を収集し，情報を適切に読み取ることができるか。 ○資料や情報を活用し，歴史を探究する学び方を身に付けているか。	○日本の近現代史を考察するために必要な歴史的知識と、近代社会の成立・発展の過程を理解しているか。 ○日本の近現代史の展開を、東アジア社会や他国の歴史と関連付けて理解しているか。 ○日本の近現代史が産み出した諸課題についての基礎的な知識を理解しているか。
評価方法	定期考査 授業中の発問に対する解答（発言・発表内容）	定期考査 プリント 授業中の発問に対する解答（発言・発表内容）	定期考査 プリント	定期考査 授業中の発問に対する解答（発言・発表内容）

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	序章　私たちの時代と歴史	1 私たちと歴史の結びつき 2 私たちの時代	○ ○	○ ○	○ 	 ○	ａ：身近な生活文化の変遷と、その背景となった社会の変化、国際化の進展によって発生している国際紛争などの諸問題を自らの課題として捉え関心・意欲を持って調査し、学習に取り組んでいる。 ｂ：身近な生活文化の変遷と、その背景となった社会の変化との関連を考察している。また、国際化の進展によって発生している国際紛争などの諸問題を自ら課題として捉え、平和的解決に向けて公正な立場から思考・判断している。 ｃ：現代世界の状況を考察するための歴史的背景を探求するため、諸資料や情報を適切に読み取り、活用している。 ｄ：現代世界の諸問題について、問題点を理解し、知識を身に付けている。	定期考査 プリント 課題 授業中の発問

	第一章　近代日本の形成	1 国際情勢の変化と明治維新 2 明治維新の諸改革 3 立憲国家の成立	 ○ ○	○ ○ ○	○	○ ○ ○	ａ：欧米諸国のアジア進出、幕末の政局、明治政府の諸改革、自由民権運動から立憲体制の成立の過程、条約改正交渉を巡る国内外の状況、文明開化による近代文化の展開について、開国から幕末の政争・明治維新を経て帝国憲法制定に至る、日本が近代国家として成立する過程に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。 ｂ：欧米諸国のアジア進出、幕末の政局、明治政府の諸改革、自由民権運動から立憲体制の成立の過程、条約改正交渉を巡る国内外の状況、文明開化による近代文化の展開について、開国から幕末の政争・明治維新を経て帝国憲法制定に至る、日本が近代国家として成立する過程に対して多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ｃ：欧米諸国のアジア進出、幕末の政局、明治政府の諸改革、自由民権運動から立憲体制の成立の過程、条約改正交渉を巡る国内外の状況、文明開化による近代文化の展開について、開国から幕末の政争・明治維新を経て帝国憲法制定に至る、日本が近代国家として成立する過程に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 ｄ：欧米諸国のアジア進出、幕末の政局、明治政府の諸改革、自由民権運動から立憲体制の成立の過程、条約改正交渉を巡る国内外の状況、文明開化による近代文化の展開について、開国から幕末の政争・明治維新を経て帝国憲法制定に至る、日本が近代国家として成立する過程に対する基本的な事柄を、国際環境と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。	定期考査 プリント 授業中の発問

	第二章　東アジア世界の変動と日本	１日清戦争と近代社会の確立 ２日露戦争と帝国日本の形成	○ ○	○ ○		○ ○	ａ：日清・日露戦争前後の東アジアの情勢と国内の政治状況の変化、産業革命による資本主義の発達、社会問題の発生について、１９世紀後半から２０世紀はじめにかけて、日本がアジア諸国に勢力を拡大する過程に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。 ｂ：日清・日露戦争前後の東アジアの情勢と国内の政治状況の変化、産業革命による資本主義の発達、社会問題の発生について、１９世紀後半から２０世紀はじめにかけて、日本がアジア諸国に勢力を拡大する過程に対して多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。 ｃ：日清・日露戦争前後の東アジアの情勢と国内の政治状況の変化、産業革命による資本主義の発達、社会問題の発生について、１９世紀後半から２０世紀はじめにかけて、日本がアジア諸国に勢力を拡大する過程に関する諸資料を収集し，有用な情報を適切に選択して，読み取ったり図表などにまとめたりしている。 ｄ：日清・日露戦争前後の東アジアの情勢と国内の政治状況の変化、産業革命による資本主義の発達、社会問題の発生について、１９世紀後半から２０世紀はじめにかけて、日本がアジア諸国に勢力を拡大する過程に関する基本的な事柄を，国際環境と関連付けて理解し，その知識を身に付けている。	定期考査 プリント 授業中の発問

後期	第三章　二つの世界大戦と日本	1 第一次世界大戦と帝国日本 2 政党政治の時代 3 軍国日本への道 4 太平洋戦争	○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○	 ○	○ ○ ○ 	ａ：第一次世界大戦をめぐる国際情勢と日本の政治・経済の状況の変化、大正デモクラシーの風潮の下での政党政治と協調外交、産業構造の変化と社会運動、政党政治に対する不信と経済不況による軍部の台頭と対外進出、太平洋戦争に至る国際関係、敗戦に至る過程と、大正～昭和戦前までの歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。 ｂ：第一次世界大戦をめぐる国際情勢と日本の政治・経済の状況の変化、大正デモクラシーの風潮の下での政党政治と協調外交、産業構造の変化と社会運動、政党政治に対する不信と経済不況による軍部の台頭と対外進出、太平洋戦争に至る国際関係、敗戦に至る過程と、大正～昭和戦前までの歴史の展開に対して多面的・多角的に考察しその過程や結果を適切に表現している。 ｃ：第一次世界大戦をめぐる国際情勢と日本の政治・経済の状況の変化、大正デモクラシーの風潮の下での政党政治と協調外交、産業構造の変化と社会運動、政党政治に対する不信と経済不況による軍部の台頭と対外進出、太平洋戦争に至る国際関係、敗戦に至る過程と、大正～昭和戦前までの歴史の展開に関する諸資料を収集し有用な情報を適切に選択して読み取ったり図表などにまとめたりしている。 ｄ：第一次世界大戦をめぐる国際情勢と、日本の政治・経済の状況の変化、大正デモクラシーの風潮の下での政党政治と協調外交、産業構造の変化と社会運動、政党政治に対する不信と経済不況による軍部の台頭と対外進出、太平洋戦争に至る国際関係、敗戦に至る過程と、大正～昭和戦前までの歴史の展開について基本的な事柄を国際環境と関連付けて理解しその知識を身に付けている。	定期考査 プリント 課題 授業中の発問

	第四章　第二次世界大戦後の国際社会と日本	1 現代日本の開幕と日本の戦後改革 2 高度経済成長の時代	○ ○	○ ○		○ ○	ａ：第二次世界大戦後の連合国による占領政策、民主化の諸改革、日本国憲法制定までの過程や内容の特徴、冷戦開始によるアメリカの占領政策の転換、サンフランシスコ平和条約の締結に至る経過、日本の経済復興の過程といった、敗戦後から１９５０年代までの戦後の歴史に対する関心と課題意識を高め，意欲的に追究している。 ｂ：第二次世界大戦後の連合国による占領政策、民主化の諸改革、日本国憲法制定までの過程や内容の特徴、冷戦開始によるアメリカの占領政策の転換、サンフランシスコ平和条約の締結に至る経過、日本の経済復興の過程といった、敗戦後から１９５０年代までの戦後の歴史に対して多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。 ｃ：第二次世界大戦後の連合国による占領政策、民主化の諸改革、日本国憲法制定までの過程や内容の特徴、冷戦開始によるアメリカの占領政策の転換、サンフランシスコ平和条約の締結に至る経過、日本の経済復興の過程といった、敗戦後から１９５０年代までの戦後の歴史に関する諸資料を収集し，有用な情報を適切に選択して，読み取ったり図表などにまとめたりしている。 ｄ：第二次世界大戦後の連合国による占領政策、民主化の諸改革、日本国憲法制定までの過程や内容の特徴、冷戦開始によるアメリカの占領政策の転換、サンフランシスコ平和条約の締結に至る経過、日本の経済復興の過程といった、敗戦後から１９５０年代までの戦後の歴史に関する基本的な事柄を，国際環境と関連付けて理解し，その知識を身に付けている。	定期考査 プリント 授業中の発問

	第五章　現代の世界と日本	1 国際秩序の揺らぎと経済大国日本 2 冷戦の終焉と日本	○ ○	○ ○		○	ａ：主権回復後の日本の国内政治の動向と新たな外交関係の確立、高度経済成長による社会の変化、社会問題の発生、石油危機前後の日本国内の政治・経済の状況と国際情勢の動向、冷戦終結結後の世界情勢の変化、５５年体制の崩壊と日本の政治の混迷、現代日本が抱える様々な課題といった現代史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。 ｂ：主権回復後の日本の国内政治の動向と新たな外交関係の確立、高度経済成長による社会の変化、社会問題の発生、石油危機前後の日本国内の政治・経済の状況と国際情勢の動向、冷戦終結結後の世界情勢の変化、５５年体制の崩壊と日本の政治の混迷、現代日本が抱える様々な課題といった現代史に対して、多面的・多角的に考察しその過程や結果を適切に表現している。 ｃ：主権回復後の日本の国内政治の動向と新たな外交関係の確立、高度経済成長による社会の変化、社会問題の発生、石油危機前後の日本国内の政治・経済の状況と国際情勢の動向、冷戦終結結後の世界情勢の変化、５５年体制の崩壊と日本の政治の混迷、現代日本が抱える様々な課題といった現代史に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 ｄ：主権回復後の日本の国内政治の動向と新たな外交関係の確立、高度経済成長による社会の変化、社会問題の発生、石油危機前後の日本国内の政治・経済の状況と国際情勢の動向、冷戦終結結後の世界情勢の変化、５５年体制の崩壊と日本の政治の混迷、現代日本が抱える様々な課題といった現代史に関する基本的な事柄を、国際環境と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。	定期考査 プリント 授業中の発問

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画

作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。